

蘇州夜曲

本調子

上

中

六

五

工

五

中

合

四

上

中

工

五

六

工

上き

中み

六が

五み

工む

五ね

中に

上だ

老か

上れ

中て

工い

尺き

上く

中は

中ゆ

尺め

工の

尺ふ

中な

尺う

中-

老た

乙こ

老い

乙-

合の

乙う

老-

乙-

老-

上た

中み

工い

五ず

工の

六そ

五しゆ

工う

五-

中の

上は

老な

上ち

中る

工い

尺は

上る

中を

中お

工し

五む

六か

五い

工-

中-

工や

上な

中ぎ

老が

乙す

合す

乙-

老り

上-

中な

上-

中く

上く

# 蘇州夜曲

本調子


一、君がみ胸に 抱かれて聞くは

夢の船唄 鳥の唄

水の蘇州の 花散る春を

惜しむか柳が すすり泣く

二、花をうかべて 流れる水の

明日の行方は 知らねども

こよい映した ふたりの姿

消えてくれるな いつまでも

三、髪に飾るか 接吻しよか

君が手折りし 桃の花

涙ぐむよな おぼろの月

鐘が鳴ります 寒山寺